

ニライみらい

2025年(令和7年) 10月号 451号

21世紀に
輝く
No.244

声で結び、
人でつながる

第五章 堂々と儲ける

利益は世の中への奉仕に対する報酬である。また、その利益によって納税もでき、社会の発展にも貢献できる。堂々と適正利益をあげる。

第三章 商品はわが娘と考える

お得意先をわが娘の妹と想う。その思いに立てば、お得意先とのつながりも、早なる商いを超えた、より深い信頼関係が生まれてくる。

第二章 お客様に愛される

あの人がやっているのだから買ってあげようと思っても、もらえるまでにはなりたい。そのためには、まずお客様に誠心誠意を尽くすことである。

第一章 商いは公事である

商いは「私事」ではない。人々のために社会のために「公事」である。その認識が基本にあつてこそ、より力強い活動が可能となる。

だと知恵が出る

半端だと

愚痴が出る



入会申込フォーム



魅力動画



行事案内



Facebook

同友会ってどういう会？

〒901-0152
沖縄県那覇市字小禄1831番地1 沖縄産業支援センター603号
☎098-859-6205(代) FAX.098-859-6208
<http://www.okinawa.doyu.jp>
E-mail:doyu@okinawa.doyu.jp

(有)プロジェクト Zenko

代表取締役

伊良皆 善子 氏

< 中部支部・碧の会 >



会社全景

伊良皆 善子氏

21世紀に 輝く

No.244

声で結び、人でつなぐ

「放送の仕事始めて、気がつけば半世紀が過ぎていました」——穏やかな笑顔で語るの、フリーアナウンサーとして活躍する伊良皆善子さん。一九六八年にラジオ沖縄へ入社以来、五十七年間、県民に親しまれる声を届け続けてきました。

現在もラジオ沖縄、RBC iラジオ、FM沖縄で七本のレギュラー番組を担当。その中でも、RBC iラジオで二十一年間にわたり放送を続けてきた「元氣です！ 中小企業家同友会」は、経営者の声を社会に発信する貴重な場として定着しています。

「経営の理念や夢を語るその姿をラジオを通じて多くの人に伝えられるのは、本当にありがたいことです」

長寿番組となったこの番組は、二〇二五年九月二十九日からラジオ沖縄へと移動し、新番組「今日も元氣です！ 中小企業家同友会」としてスタートします。伊良皆さんは「これまでに出会った素晴らしい社長たちのご縁に感謝しつつ、これからも中小企業家の元氣を県民に届けたい」と意気込みを語ります。

「同友会」との出会いが転機に

伊良皆さんが同友会に入会したのは三十五年前。当時、局アナとして七年たったころ、待ちに待った四年ぶりの第二子を授かった時、「このまま仕事を続けると、お腹の赤ちゃん、保証しませんよ」というドクターの一言で、即、退社を決めました。出産後フリーアナとなるのですが、ほとんどがピンチヒッターばかりで仕事に恵まれず、悶々とした日々が十五年間も続きます。経営や営業は全く未知の世界。そんな折に誘ってくれたのが、女性経営者部会「碧の会」の先輩でした。

「経営者が集まってまじめに勉強し、切磋琢磨している姿を見て、自分も勉強したいと思いました」

事務所開きやイベントに仲間が駆けつけてくれたことは大きな励みになったと振り返ります。「あのときの支えがなければ、今の私はなかった」と感謝の言葉を口にしました。

童謡に込める「やさしさの文化」

もうひとつの柱が「童謡の語り部」としての歩みです。

一九九二年から全国の「童謡のふるさと」を訪ね歩き、童謡の背景にある愛と平和を語り継いできました。

「童謡はやさしさの文化。やさしい文化がやさしい人を創り、やさしい社会を創ります」

その信念のもと、県内外で講演やコンサートを開催。南米四カ国の県人会や、パリの「日本春祭り」での公演を通じて、世界にも童謡の心を発信してきました。二〇〇七年に始めた「全国童謡まつり」には延べ二十三団体・五一六〇人が県内外から参加。世代や地域を超えて童謡を通じた人のつながりを広げています。

放送・童謡・同友会に 共通するもの

伊良皆さんの活動の根底にあるのは「人と人をつなぐ」ことです。放送を通じてリスナーの心を結び、童謡を通じて優しさを広め、同友会で経営者仲間と学び合う——。その全てに「声」と「出会い」の力があります。

「ラジオの前にいる一人ひとりに寄り添うように、経営者仲間にも寄り添いながら共に歩んでいきたいと思っています」

その言葉通り、伊良皆さんは地域の灯台のように人々を勇気づけ続けています。

未来へ——「今日も元氣で！」

これからの目標を尋ねると、「若い世代にもっと童謡を届けたい」と答えてくれました。デジタル時代だからこそ、心に残る歌や語りが必要だと感じているのだそうです。

そして、ラジオ沖縄で始まる新番組「今日も元氣です！ 中小企業家同友会」にも期待が込められています。「これまで支えてくださった皆さんに感謝を込めて、これからも中小企業家の元氣を届け続けます」と力強く語る伊良皆さん。

放送人として、童謡の語り部として、そして経営者仲間と共に歩む一人として。伊良皆善子さんは、これからも「二十一世紀に輝く」存在であり続けるに違いありません。(株)アイセック・ジャパン 一瀬宗也

《会社概要》

(有)プロジェクト Zenko

代表取締役 伊良皆 善子氏

〈中部支部・碧の会〉

住 所 / 沖縄市字諸見里2-10-10

T E L / 098-932-7736

事業内容/ テレビ・ラジオ・広告
& イベント企画・運営
& 社員研修など



8月新会員オリエンテーション

八月十三日、浦添市社会福祉センターにて、八月新会員オリエンテーションが浦添でだこ支部の設営で開催され、新会員四名を含め、十六名が参加しました。



全体風景

伊波垂矢子幹事長の挨拶でスタートし、「同友会の歴史と理念」は田上カルロス副代表理事、「会員の体験報告」は知念直明支部幹事が報告しました。知念



新会員の皆さん

新会員の皆さんは右から、

- ① 仲里 伸吾氏 (株)ウィーシャイン 社長
- ② 譜久里 武氏 ((一社) アスリート工房 社長)
- ③ 新崎 直和氏 (株) LIM projects 社長
- ④ 知念 直明氏 (株) Edift 取締役

氏は、同友会の会員を自ら申し入れ、社長から交代し、五月からは支部役員として活動し、自社事業で同友会のメンバーに助けられた経験から「ハイ」か「イエス」で今後も積極的に関わっていくと決意を報告しました。

今回は司会も新会員で新役員の新崎氏が務め、新鮮なオリエンテーションになりました。「経営の悩みをどのように解決していますか」をテーマにしたグループ討論体験では、時間が短かい中でしたが、どのグループも笑いと真剣さが入り混じっていました。(事務局)

茶論

コロナ前までは一三〇〇名以上いた沖縄県同友会も、現在では一〇〇〇名強と一〇〇〇名を下回る勢いで会員が減っています。コロナ後のV回復

どころか落ち込みが続いている状況で、仲間づくり推進本部長としては頭の痛い問題であります。▼なぜ量が必要なのか？質が先か量が先か？「質も、量も」なのです。会員自身が同友会活動と企業経営を不離一体としてとらえ、より積極的な活動をすすめていくためにも大勢の仲間の知恵と力を必要としているのです。▼同友会に寄せられる社会的な期待も格段に強く、働く場をつくり、地域を担う人材を育てる地域づくりの新たな可能性も広がっています。何のために、どのように同友会が社会に責任を果たすのか。そのためにどんな仲間づくりを進めていくのか。幸せの見える地域づくり、社会づくりを展望して取り組むのが仲間づくりなのです。▼よって量が減る仲間が減ると、外への影響力が弱くなるのは必然です。今年度からサンライズ支部の設立と共に、例会の数も増やして月に数回の例会が各支部で開催されております。▼仲間づくり推進本部では毎週事務局ランチ会を開催しております。同友会がわかりやすいチラシも作成しておりますので、皆様の周りにいる経営者仲間をお誘い頂きたいと思っています。

(座間味亮)



那覇支部南&北地区合同例会

同友会で出会った衝撃と自己変革



グループ討論



会場全体



報告者の洲鎌誠氏

七月二十八日、沖縄産業支援センターにて、那覇支部南&北地区の合同で七月支部例会が開催され「破天荒な社長から引き継いだインテリ二代目の平御香（ひらうこう）物語」同友会で出会った衝撃と自己変革」のテーマで、(株)異エンタープライズ 専務の洲鎌誠氏が報告し、三十八名が参加しました。

(株)異エンタープライズは、一九八五年に父が創業し、映像事業部を一九八五年、貿易事業部を一九九七年と次々に立ち上げ、ホテルやIT等、様々な事業展開をしていきました。その後、コロナ禍を経て、事業を整理し現在は貿易（平御香等）中心に変化しています。

洲鎌氏は二〇一〇年に入社し、翌年には社長である父に、「あとは任せた！」の言葉と経理データの入ったUSB一つを渡されたことが事業承継への第一歩。しかし、会社の実情は多くの問題点や課題がありました。悩める中で、誘われるまま同友会に入会して、若手経営者部会「うりずん」の会合で出会う自分より若い経営者が、懸命に学ぶ姿に衝撃と刺激を受けます。また、支部例会の経営体験報告を聞く中で、経営者としてある前に人としてどうなのかを問われ、包み隠さずさらけ出して接することから、謙虚さや勇気を学びました。

今後の展開と課題では、線香やウチカビなど「伝統文化を守る」を使命とし、新商品の開発を視野に、事業の継続性と利益率の向上に取り組むための十年ビジョンを考えたいと結びました。

「同友会での学びや気づきをどう活かしていますか」をテーマにしたグループ討論では、例会に参加しての学びを実践することで、自分自身や会社が変わってきたことなどの発表がありました。

(事務局)



全体風景

八月十二日、西原町中央公民館にて、サンライズ支部8月支部例会が、「楽しい事を仕事にする為に」その先の社会貢献も楽しく」のテーマで開催され、とり坊主の代表、船谷政喜氏が報告し、二十五名が参加しました。

船谷氏は、生い立ちで人並外れた「行動力」の發揮をキーワードにして話し、ヤンチャな時代に呆れた母親から「この行動力をもっと他に活かしたら」の一言で、自身を見つめ直ししました。そして、十八歳で就業し、二十五歳からの(株)近代産業では、この「行動力」を社長に認められ、後継者に指名されますが、大志を抱いて議員の道、経営者の道を選択します。

現在のから揚げ専門店「とり



報告者の船谷政喜氏

坊主」は、二〇一七年に創業、翌年には同友会に入会し、すぐに経営指針作成講座を受講しましたが、その時は別の事業での理念づくりなどに取り組みました。今は、作成講座での理念の重要性や中期ビジョンの考え方などに活かすことが出来ます。この間コロナ禍もあり、人材が育たず、非常に厳しい時期がありました。

しかし、二人の息子が沖縄に帰ってきたことで、やっと明るい兆しが見えてきた現状を語りました。

船谷氏は、支部例会で報告することがきっかけで、経営理念と中期ビジョンを子ども達と作り出した。子ども達と気持ちが離れていたことも分かり、お互いに腹を割った話ができた支部役員会に報告しています。

報告後は、「楽しく仕事をするために何をしていますか」のテーマで、グループ討論が行われ、職場



グループ発表



サンライズ支部 8月支部例会

楽しい事を仕事にする為に

その先の社会貢献も楽しく

における取り組みなどが活発に意見交換されました。

(カラオケ同友会・島尻裕巳)



那覇支部経営基礎講座 第4・5講

今回の二回の講義は「沖縄イチ簡単な決算書勉強会 貸借対照表（B/S）」をテーマに（同）グラッド 代表 大城章氏が講師を務めました。まず「決算書を読み解く必要性」を理解し、その後P/L（損益計算書）、B/S（貸借対照表）を中心とした決算書の数字の見方を学びました。決算書が読めない、苦手だと感じている経営者はもちろん、若手社員の育成にも活用できる分かりやすい内容でした。



第4講の全体風景

【第4講】

八月六日の第四講では、資金繰り改善や事業計画支援の実務経験を活かし、「決算書＝社長の通信簿」という切り口で、数字の意味を分かりやすく解説していただきました。

特に、売上総利益・営業利益・経常利益という“三つの利益”の理解を中心に、利益率の計算演習や実例を交えた説明が好評でした。「決算書は社長の通信簿であり、融資や取引先からの評価に直結する」という具体的な指摘は、大きな気づきとなりました。

参加者からは「なぜこの数字を作るのかが理解できた」「利益構造のイメージが掴めた」「自社の課題が見えた」「社員も一緒に学べて同友会の温かさを感じた」などの声が寄せられています。

また、減価償却費を加えた簡易キャッシュフローや、損益計算書を通信簿や健康診断書にたとえる説明も印象的で、学びを現場に持ち帰る有意義な時間となりました。

（株）プレイバック・シアター

研究所 河野信之

【第5講】

八月十三日に行われた第五講では、貸借対照表や主要財務指標【自己資本比率（三〇％以上が強い会社）・ROA（財産をどれだけ効率よく利益に繋げているのかを示す指標）・流動比率（二二〇％以上、二〇〇％以上が望ましい）】の理解を深めることが中心テーマでした。数字の計算方法を学ぶだけでなく、会社の歴史や経営者の姿勢が反映される点を踏まえ、多角的に評価する重要性が強調されました。

事例としてミルクファクトリーや同友会フーズの決算書を分析し、自己資本比率の低下や黒字倒産のリスクを確認。物価上昇や値上げの課題にも触れ、中小企業はコスト転嫁を怠ると経営が行き詰まると警鐘が鳴らされました。

貸借対照表は「会社の記念写真」であり「経営者の性格シート」であるとの表現が印象的で、金融機関には良いも悪いも

開示することが信頼につながると指摘。今後は管理会計を学び、稼ぐ力を強化しつつ、経営指針作成にも取り組むべきと示されました。

（株）普天間商会・普天間直樹



第5講での大城章氏



第30期 同友会大学開講

歴史・経済など沖縄の課題を
広く学び、総合的な人間力を高める

同友会大学第三十期が、八月十六日、南風原中央公民館にて入学式と第一講を開催しました。今期は受講生二十六名でスタートを切りました。入学式では小渡



入学式の記念撮影

学長が、四期生として修了したあとも同友会大学運営に関わり続けている理由として、「変化に激しい現代社会のなかで経営者が学び続け、講師や受講生の皆さんから常に刺激を受け会社も発展させていくことができている」と体験を話され、激励を込めて挨拶しました。第二十九期修了生代表として(株)アイセック・ジャパ

ンの一瀬宗也氏が「皆さん、ワクワクしてますか？社会人になって勉強できることは本当に幸せなこと」と励ましの言葉がありました。また第三十期代表として(株)ガリバー旅行企画の宮國正広氏が「去年、神谷さんの公開講義を見て受講を決意した。最後まで根気よく受講したい」と決意表明がありました。



第1講の神谷氏

第一講は「小さな島の大きな文化」踊の舞台はこうして作られる」をテーマに組踊伝承者の神谷武史氏が講師をつとめました。第一講は受講生だけでなく

一般の方にも「組踊り」の素晴らしさを体感していただきたく、記念講演として公開講座として開催しました。踊りや琉球音楽・楽器紹介や、演舞の合間に、神谷氏の講話が合間に入る構成で進行。野球少年だった自身が芸能と出逢い、世界に誇れる文化を発展継承させていく覚悟も含めて話されました。

第二・三講は八月三十日、沖縄産業支援センターにて開催されました。



第2講の新城氏

第二講は「戦後八十年に考える平和の在り方」沖縄戦から何を学び継承すべきか」のテーマで沖縄歴史教育研究会・沖縄大学客員教授 新城俊昭氏が講師をつとめました。「平和」とは、戦争が起こっていないことではなく、「日常生活の中で醸成されていく」と、今を生きるひとり一人が互いの尊厳を守り違いを受け入れていくかを、冒頭投げかけました。戦前の教育や、読谷で起こったガマ(チビチリガマ/百四十名中八十三名自死とシムクガマ/一千人が全員助かる)での悲惨な自死がどうして起こったのか。リーダーシップの在り方や、自身が

どう判断して行動するか、未来にどう継承していくかを考えさせられる内容となりました。



第3講の島村氏

第三講は沖縄の貧困問題に焦点をあて「沖縄の子どもの貧困にどう立ち向かうのか」沖縄県の現状と課題から見えるもの」をテーマに沖縄大学名誉教授の島村聡氏が講義。子どもの貧困とクロージアアップされがちなが、実は「十八歳未満の子供がいる家庭の貧困」であり、自分たち大人の貧困であると指摘。十年前から調査をしているなか、収入は増えても消費者物価指数も上昇し、豊かさを感じない。さらにひとり親家庭の困窮率は上がり、統計分析から見えてくる社会構造を解説。全国と沖縄の比較でも、物価変動の大きさが沖縄の家計を圧迫しており、経済格差は、進学率だけでなく体験・経験値の格差も生まれているそうです。そのため就業し、社会人になって会社でのフォローも大切になると説明。グループワークでは「何が課題となるか」「課題解決のためにどんな方法がとれるか？」について、付箋紙にそれぞれ書き出し、自社で何ができるかなどの発表がありました。(事務局)



八重山支部 8月支部例会

失敗から学んだ 他者との協力関係の築き方



報告者の熊野英一氏

八月十八日、大濱信泉記念館にて「失敗から学んだ他者との協力関係の築き方」アドラーから得られる経営の判断軸と題しまして「株式会社子育て支援」代表取締役 熊野英一氏を報告者に迎え、八重山支部例会が会員以外の方も含め総勢十二名の参加で開催されました。

報告者の熊野英一氏はフランスのパリで生まれ、早稲田大学政治経済学部経済学科卒業、メルセデス・ベンツ日本にて人事部門に勤務後、米国に留学しMBA（経営学修士）を取得、その後いくつかの企業で勤務するも、自らで事業を起こしたいという想いと、日本が抱える最大かつ喫緊の課題である「少子化問題」の改善に貢献したいと考え二〇〇七年、株式会社子育て支援を創業し代表取締役役に就任しました。

創業当初は、これまでに世の中に無いサービスだった為、業績が伸びず苦しい

経営状況が続きましたが、自身の営業努力で何とか創業三年で黒字化を達成しました。しかし、気づけば、創業メンバー



全体風景

が全員退職してしまう事態になり、会社経営が難しくなった時に、当時の妻が即戦力として入社し窮地を脱します。その後は会社の業績も安定、徐々に上向き始めます。

しかし妻とは家庭でも職場でも主導権

争いが頻繁に発生し関係性は悪化の一端を辿り、ついには妻が退職。最終的にはお互いに歩み寄ることが出来ず離婚を選択することになりました。

会社経営は何か変わったが、結果的に妻と離婚してしまい、どうすれば良かったのかを自問自答している

時にアルフレッド・アドラーの著書に出会います。

アドラー曰く、「人間の悩みはすべて対人関係の悩み」であり「その解決もまた、対人関係の中にある」と説いており、熊野氏のこれまでの、職場や家庭での失敗も全て、人間関係にあることに気付かれます。

それからは、社内の人間関係においても、うまくいかない原因究明を詰める会議を止めて、どうやたらうまくいくかの検討会議にしたり、結果だけを評価する方法から、プロセスを評価方法に変えたりしました。その結果、熊野氏自身が社員を信頼し、業務を任せることが出来る様になり、自走する組織への変貌を遂げたそうです。

その後のグループ討論では「真の協力関係を築くにはどうしますか？」を討論

テーマに各テーブルにて活発な討論が展開されました。皆様もこの機会にアルフレッド・アドラーの著書を読んでみては如何でしょうか？

（ナカマホーム（株）・仲間光）



集合記念撮影



中部支部 8月支部例会

クレームだらけの現場からの転換



報告者の山根悟氏と座長の與崎氏

八月二十日、恩納村ホテルサンセットヒルにて、中部支部八月例会が開催され、四十名の会員が参加しました。テーマは「変化の時代を生き抜く戦略〜クレームだらけの現場でやってきた事、これから行う事〜」。報告者は、(株)ワイズリゾート沖縄常務 山根 悟氏。山根氏はホテル業界で三十年以上の経験を持ち、接客やマーケティングの指導や教育機関での講義など幅広く活躍されています。沖縄サミットやリーマンショック、コロナ禍など幾多の試練を乗り越えてきた中で、「変化の時代こそ学びが不可欠」と強調されました。

報告の中で特に印象深かったのは「日報改革」の実践です。高稼働が続き、現場ではクレームが絶えなかった時期に、山根氏はこれまで学んだことを自社に合わせて応用。従来の事後報告型「業務日報」を、事前報告型の「計画書」へと改めました。従来の日報は経理的な数字報告が中心で、計画性や改善の視点に欠けていましたが、新しい形式では過去の実績を基に当日の予測や注意点を記載し、さらにスタッフの配置や役割を具体的に明示。誰が、何を、どのように行うかを事前に共有する仕組みとしたのです。

この改革により、上司である山根氏は店長の考えを把握して適切な助言を行えるようになり、スタッフも数日先の自分の役割や戦力状況を把握して主体的に動けるようになりました。結果として、社員が自ら考え行動する風土が形成され、上司・店長・スタッフの想いが共有され

る組織へと変化していったのです。「自分を超える人材を育てることが目標」という山根氏の言葉には、人材育成への強い思いが込められていました。

報告を伺い、私自身も日常業務で数字報告に偏っていると痛感し、耳の痛さと同時に大きなヒントを得ることができました。

続くグループ討論では、討論テーマ以上に山根氏の熱い報告への感想が飛び交い、会員同士の活発な意見交換が展開されました。懇

親会はホテルサンセットヒル内のワイズリゾートが運営するレストラン「ムイヌワージ」で開催され、美味しい料理を囲みながら交流を深め、学びと親睦が融合した充実の一日となりました。(司法書士法人なかいし事務所・新城千夏)



全体風景



グループ討論

南部支部 第1回 AI 学習会

AI との対話で変わる経営

「道具ではなくパートナーとして」

八月十四日、南部支部第一回 AI 学習会が、南風原町商工会にて、「AI との対話で変わる経営」道具ではなくパートナーとして」のテーマで開催され、十五名が参加しました。

講師は（同）アキユーズ 代表社員 齋藤孝春氏が務め、第一

回は AI との対話を体験し、一発質問ではなく、対話で深める価値を実感するセミナー方式でした。

Claude というアプリの無料版を通して実際に活用し、質問に対する答え、メールへの返信、小学生でも分かりやすい回答を求める等、活用の基本的な部分を学びました。日々進化し続ける AI を利用しないと中小企業の生産性は時代の置き去りにされてしまうことから今年度は三回にわたって開催します。

齋藤氏は、「私自身、AI なしではここまで来れませんでした。AI は単なる道具ではなく、本当の意味での右腕です。この体験を、



南部支部の受講風景

一人でも多くの経営者に伝えたい」と語りました。

次回は九月二十日に開催いたします。是非一緒に進化しましょう。

（南）たけ事務・竹富久

碧の会 AI 学習会

ビジネスで活用する

生成 AI 入門セミナー



崎原 盛子氏

碧の会の経営・政策委員会は、八月二十二日に沖縄産業支援センターにて「ビジネスで活用する生成 AI 入門セミナー」と題し、AI 学習会を開催されました。講師にニヌファ代表の崎原盛子氏をお迎えし、生成 AI の最新動向や、実際の業務での具体的な活用方法についてご紹介いただきました。

AI 導入に関心を持つ二十名が参加し、代表的な AI ツールである ChatGPT や Gemini に加え、NotebookLM や Genspark といった注目の新しいツールについても幅広く学びました。

その場で実際に操作する実践形式で進められたため、参加者は具体的な活用イメージを掴むことができました。

特に印象的だったのは、画像や動画を簡単に生成するデモンストレーションです。また、口頭で伝えた内容が即座に報

告書となり、メールで送信される業務自動化の実演や、契約書・定款の作成例も共有され、AI が実務に直結することを強く実感しました。

参加者の多くは ChatGPT の利用経験がありましたが、無料版では機能に限りがあるため、より高度な機能を持つ有料版の活用を検討する価値があるとの助言もありました。

今回の AI 学習会は、AI が単なるツールではなく、私たちの働き方を根本から変える強力なパートナーであることを実感する貴重な機会となりました。学んだ知識や体験をそれぞれの業務に活かすことが、今後の業務効率化につながる第一歩となり、参加者にとって非常に有意義な時間でした。

（南）大宮工機・玉城まき子



碧の会の受講風景



宮古支部 8月支部例会

理念を実践に結びつけ、 社員とともに成長する企業へ



報告者の 福原 恵津子 氏

八月二十五日、宮古島市ICT交流センターにて、今年度2回目となる支部例会を、外部参加二名を含む二十名の参加で開催しました。例会のテーマは「継続して利益を出せる企業づくりとその人材育成」そして事業継承への想い」とし、報告者として(株)つぶるの福原恵津子社長、座長は(同)楽技建の宮國さやか執行役員により行われました。

福原氏は県内の専門学校を卒業後、県内金融関連企業で数年間働いた後、都内の飲食店や沖縄に戻り保険会社の営業などをしながらキャリアを積んでいました。保険会社時代の営業力を買われて先輩に誘われ入社した会社で営業として実績を積んでいる中、事業縮小で事業所を閉鎖するタイミングで福原氏が事業所を買い取って独立、起業に至りました。

経営者としての学びを深めるために、京セラ創業者の稲森和夫氏が主宰する「盛和塾」で研鑽を重ね、経営者としての能力を高め、会社の業績を上げながら社員の幸せにするという経営理念を確立。その理念を日常の行動や組織づくりに実践して社員一人ひとりの成長を会社



挨拶する 友利支部長

の力につなげてきたかを具体的に報告しました。
その後のグループ討論では「会社経営のためのPDCA、まわしていますか？」をテーマにグループ討論を行い、参加者同士で自社の課題や取り組みについて意見交換。「自社でもすぐに取り入れたい」

「社員と共有できるヒントを得られた」といった感想が寄せられ、学びを共有する場となりました。

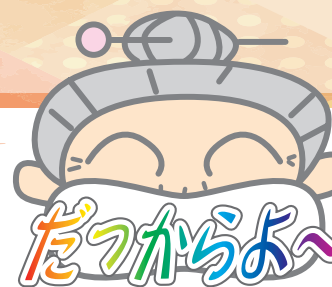
宮古支部では今後も、経営者同士が理念と実践を通じて学び合える例会を重ねていきます。

(先嶋産業(株) 友利博明)



会場全体

沖縄の錆(サビ)と闘い 地球環境を守り、次の世代に



会員ホット情報

今おすすめだよ!



石原 貴史氏

沖縄は世界でも有数の錆(さび)発生地域です。世界をみれば中東地域では錆のない国もあれば、ハワイ、まして日本本土でも錆問題は小規模であり、(株)ゆにてつくすほどの専門的に防錆処理業を行う会社はあまりありません。そのため、本土の海辺にある水族館からの受注もありました。沖縄における錆問題は、世界に類をみないその腐食スピードから、年間の経済損失が沖縄県民総生産の5%。約2千200億に迫ると考えられます。

(株)ゆにてつくすは、43年前に石原貴史氏の父昌司氏が、国内大手電機メーカーで空調機器等のセールスエンジニア時代に、塩害による錆問題に直面し、解決しようと立ち上げました。「ゆにてつくす」はユニット(統合)とテクニク(技術)を合わせた造語です。そして親しみやすいよう「ひらがな」表示にしました。同社は車両のほか、屋外設置機器・器具、鉄骨構造物などに防錆加工を施す高い技術力を持っています。

受注は、ほぼ大手メーカーからのB to Bで、一般家庭用から大柄施設用まで様々なエアコン室外機を、分解し細部まで防錆作業を行い、メーカへ返却します。防錆作業は工場で行い、業界初となった液体静電塗装で高品質な塗装を施します。この塗装方法は、どんな細かいエッジ部分でも静電の作用によって塗装し、高い防錆効果を発揮します。納品先は学校関係を含めた公共施設で、この規模に対応できる会社は県内ではごく少数です。また、売上げの二割弱を占める、自家用車を錆から守る作

業は、ホンダ社内部にある車両防錆センターで行っています。

貴史氏は、昨年の一月に代表取締役役に就任しました。三男ですが1982年の会社設立年に生まれたこともあり、見えない何かを感じています。創業の想いを継ぎ、錆による沖縄県の経済損失を最小限に抑え、限りある地球資源を有効活用するという社会的使命に燃えて事業に取り組んでいます。

(カラオケ同友会・島尻裕巳)

《会社概要》

(株)ゆにてつくす

代表取締役 石原 貴史氏

〈サンライズ支部〉

所在地／西原町字幸地1081

TEL／0098-944-6088

事業内容／防錆・防錆処理業



会社全景

「食で笑顔を創造する企業」

株式会社ハピスル代表 金城秀治郎さん。

経営理念

「おいしいケーキでみんなを笑顔に」

創業 18 年目、20 年で 20 店舗目標を掲げてスタートしましたが、うまく進まない、経営を学ばなければ展開できないと感じ同友会に入会し経営指針を受講。自身の中に経営理念はしっかりあると思っていたが、成文化しようと思いを表現できない。先輩会員から経営発表会を開くことを進められ、1 年かけて納得のいく経営理念を作りあげました。

「笑顔」は、従業員の笑顔、お客様の笑顔、地域人々の笑顔と明確になりました。

これまでケーキ職人の世界では、労働時間が長い、休みが少ないなど働き方に課題があり、女性店員が結婚すると続けられない職場となっていたため、仕事のやり方を改革しないと将来は厳しいと判断し、仕事の効率化など働き方を変えました。

会社では健康に害する食材を避けるため厳選素材を使用しています。国産小麦粉、EM 牛乳、沖縄産のきび糖や 100% 動物性バターなど。しかし商品に見合った価格設定ができずにいましたが、同友会で「価格は価値に支払われるもの」という考え方にシフトできたことも大きな転機になりました。5 年前に法人化して、社員を育てて代表として経営に専念する体制を作り上げました。

同友会での学びで変わったのは、

社員との関係。本音は参加させることに迷いがありました。みんな職人なのでケーキ作り以外の学びはイヤだろうと考えていましたが、参加した店長から「ありがとうございます。このような学びをしたことがなかったので、今後の自分に役立つと思います」と感謝され、正直驚きました。

また、会員企業のすごさはどこから来るのかと聞いてみると、「朝礼が大切」と言われました。店舗では朝からバタバタして朝礼の余裕がないと感じていましたが、社員から「ウチも朝礼やりましょう」と自発的に提案が出たことも嬉しいことです。他企業へ朝礼見学も計画しています。社員が自ら考えていることに成長が感じられます。

「社員がわくわくする 10 年ビジョン」も作成しました。

県外の大手ホテルでフランス料理のシェフからスタートしたキャリアを活かして、将来はレストラン経営も計画したい、社員のボーナスを増やして笑顔にしたいと夢は広がっています。

「異業種交流が人材育成になっており同友会のおかげで今がある」頼もしい発言でした。

(オフィスあるふぁ・青山 喜佐子)



わが社の ポロジ

第329回



(株)ハピスル
代表取締役 金城 秀治郎 氏
＜浦添でこ支部＞

社員も社長も成長する同友会の学び

《会社概要》

(株)ハピスル

代表取締役 金城 秀治郎 氏
＜浦添でこ支部＞

住 所／那覇市真嘉比2-30-17 グランドアビタシオン101
TEL／098-911-6976
事業内容／洋菓子製造小売（パティスリーアプリコット）





映画「チョココレートな人々」上映会

温めれば、またやり直せる！

雇用・就労支援フォーラムで講演

八月二十八日、沖縄産業支援センターにて、映画「チョココレートな人々」の上映会があり、外部を含め五十名が参加しました。

映画「チョココレートな人々」は、QUONCHOCOLATEの夏目浩二代表の取り組みを描いたドキュメンタリー映画です。夏目代表は、チョココレート工場と販売店（全国五十店舗ほど）を経営しており、約五〇〇名の社員のうち半数以上が障がい手帳を保有の方で、その他にも子育て中のママさんや悩みを抱える若者、LGBTQの方がいます。おしゃれでおいしそうなチョココレートの裏には、たくさんさんの苦勞・葛藤・喜びのドラマがありました。夏目氏は目標達成することよりも、多くの課題や困難に直面し「もがく」ことに意味があると強調していました。当日は、QUONCHOCOLATEのチョココレートが来場者に用意され、ご賞味いただきました。

十月四日に糸満で開催される「雇用



「チョココレートな人々」上映会風景

就労支援フォーラム」の基調講演に、そのQUONCHOCOLATE代表の夏目浩二氏をお呼びしました。「障害のある方が地域で働き、地域で暮らすため」をスローガンに毎年開催している「雇用・就労支援フォーラム」。夏目氏のロマンに満ちた講演が楽しみです。

（カラオケ同友会・島尻裕巳）



役員研修講座 第5講

景況調査に協力し、

調査結果の分析を還元し、経営に活かす!!



コザ信用金庫の
前屋誠専務理事

八月二十六日、沖縄市のレフ沖縄アリーナbryベッセルホテルズにて、役員研修講座第五講が開催され、北部支部と宮古支部のサテライト会場を含め五十二名が参加しました。

中部支部の設営で開催された第五講は、よい経営環境づくり（景況調査、政策提言）を課題として、「景況調査をどのように自社経営に生かしていけば



星崎 浩二 氏

よいからマクロデータとミクロデータの活用」のテーマで、コザ信用金庫 専務理事の前屋誠氏に講師をお願いし、オフィス星崎代表の星崎浩二氏（政策副委員長）が、座長として、問題提起を行いました。

問題提起で星崎氏は、同友会の四半期ごとの景況調査を紹介し、その見方と、四一六月期の結果から経営上の課題を明らかにし、経営者にとって重要な資料となることを示唆しました。

コザ信用金庫は、四半期ごとに中部地区を中心とする取引先の中小企業一九二社に対してアンケート調査結果をおこない「コザしん景気レポート」として、景気動向を取りまとめています。前屋氏は、調査結果を紹介しながら、五年後の経営を見据えるために必要な視点やデータの捉え方から、景況調査の意義と結果分析の必要性を強調しました。

グループ討論では、「景況調査をどのように自社経営に生かしていきますか？」のテーマで討論し、調査に協力することの大切さを共有しました。

（事務局）

第35回

経営研究フォーラム

第Ⅱ部 分科会 15:35～18:20

分科会の会場は参加登録締切後、各分科会人数で決定しますので決まり次第ご案内します。

第1分科会 社員教育

テーマ 私がここにいる理由 ～辞めない組織、集まる組織～

【パネリスト】



(有)スタランニング
主 任

小橋川 寛子 氏

【会 社 概 要】
設立/1996年
資本金/5,000万円
社員数/18名
(9)パート・アルバイト(8)
事業内容/印刷・印刷デザイン
加工費・印刷費



(有)たけちゃんぼーむ
那覇本店 店長

大城 良太 氏

【会 社 概 要】
設立/2000年
資本金/5,000万円
社員数/28名
(9)パート・アルバイト(12名)
事業内容/飲食・飲料・デザート
不特定業(飲食・飲料・デザート)



(株)琉球補聴器
宜野湾店 店長

山内 真紀 氏

【会 社 概 要】
設立/1987年
資本金/1,600万円
社員数/40名
(9)パート・アルバイト(8)
事業内容/補聴器・補聴器
補聴器販売・メンテナンス

【コーディネーター】



(株)ハルモニグラフィ
代表取締役

小橋川 牧 氏

第2分科会 経営理念

テーマ 理念から始まる経営の未来 ～経営の第一歩は理念づくりから始まる～

【パネリスト】



(株)TEAM沖縄
代表取締役

薄川 洋邦 氏

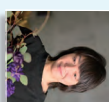
【会 社 概 要】
設立/2018年
資本金/900万円
社員数/21名
(9)パート・アルバイト(9名)
事業内容/建設・建築・不動産
ビル・マンション・商業施設・工場



(株)挺
代表取締役社長

高松 茂夫 氏

【会 社 概 要】
設立/2019年
資本金/400万円
社員数/6名
事業内容/建設・建築・不動産
ビル・マンション・商業施設・工場



(株)華風
代表取締役

上杉 京子 氏

【会 社 概 要】
設立/2019年
資本金/350万円
社員数/4名
事業内容/建設・建築・不動産
ビル・マンション・商業施設・工場



(株)シズテック沖縄
代表取締役社長

赤嶺 宏 氏

【会 社 概 要】
設立/2019年
資本金/350万円
社員数/4名
事業内容/建設・建築・不動産
ビル・マンション・商業施設・工場



報告概要
「経営がうまくいっていない」など不安を抱えている3氏が同友会入会後、経営理念や経営計画を立てることで重要な役割を「経営指針作成講座」を受講。そこから、社員は「パートナー」という同友会理念に共感し『人生が楽しく経営』を実現していきます。1人でも、経営理念を作成し、経営計画を立てることで個人から組織へと変化した経営者としての成長をリアルタイムで語り尽くします。

第3分科会 事業承継・M&A

テーマ 今、あなたが動けなくなったら、会社どうするの？



【報告者】

(有)沖縄機械/代表取締役

真栄田 一郎 氏

【会 社 概 要】
設立/1991年
資本金/500万円
社員数/8名
事業内容/機械・電気・電子機器の設計・加工
機械・電気・電子機器の設計・加工

【プロフィール】
出身/沖縄県那覇市
趣味/ゴルフ、釣り、読書

報告概要
本分科会では、エエタ電気工事事業の事業承継とM&Aの実践事例を報告します。代表取締役を引継ぎ承継する際は、単なる役員交代ではなく両親戚や経営哲学をいかに引き継いだか、その準備や社員への伝え方など紹介。また承継と同時に進めた両親戚の買収を題材に、買収前後の留意点や問題を共有します。後継者不足に悩む中小企業家、事業の継続と発展を実現するためのヒントをお伝えします。

第4分科会 地域づくり

テーマ 大型テーマパークがやってきた。地域はどう動く？ ～“競合”から“共存”へ、地域経済の新しいかたち～



【報告者】

沖縄ブルーミング(株)

代表取締役

安里 博樹 氏

【会 社 概 要】
設立/1981年
資本金/4,400万円
社員数/50名
事業内容/フラワー・グリーン・ランドスケープの企画・設計・施工
フラワー・グリーン・ランドスケープの企画・設計・施工

【プロフィール】
出身/沖縄県那覇市
趣味/空手(沖縄県立)、ゴルフ、エレクトロニック・ギター
好きな音楽/ロック、ポップス

報告概要
沖縄本島北部地域に今夏開業した大型テーマパーク施設の経済的効果として、北部地域の既存の観光施設との回遊性向上が期待されています。長年続いた「安くても当たり前」の観光価格設定の置き換えされ、「北浦が観光の主役」になる可能性も大々になりました。地域をやり易くする既存の施設がどのように「競争」から「共存」に舵を切ってきたか、報告していただきます。の安里社長に自社の実践や構想、持続可能な観光の発展と地域をどう巻き込むか、報告していただきます。

第5分科会 DX (デジタルトランスフォーメーション)

テーマ 経営の未来は、理念とDXで描く



【報告者】

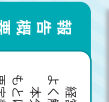
(株)ラジエス沖縄

代表取締役

田上カリス 氏

【会 社 概 要】
設立/2014年
資本金/300万円
社員数/10名
事業内容/情報システムに関するコンサルティング、構築、運用保守
情報システムに関するコンサルティング、構築、運用保守

【プロフィール】
出身/兵庫県神戸市
好きな音楽/クラシック



報告概要
経営課題や地域の課題に正面から向き合う中小企業こそ、DXの力が必要で、そもそも、ITは目の前の課題を効率よく解決する「道具」であり、DXは「企業としてどうあるべきか」という本質的な変革を目指す取り組みです。本分科会では、「理念経営」DXを「テーマ」に、同友会での学びを契機に自らに取り入れてきた経営者の実践事例をもとに、ITの力で一歩踏み出す「自分らしいDX」のヒントをお聞かせします。経営指針の策定、社会的責任の再定義、そして地域とともに歩む新事業への挑戦、DXを「手段」として、これからの経営を一緒に考えてみませんか？

